

ほと 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第6号（通算第37号）
平成29年1月13日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



西鱒田小学校 校内書き初め大会
(1月10日 西鱒田小体育館)

大造じいさんは、なぜ残雪を撃たなかったか

教育センター 指導主事 池田 岳康

5年生の国語に「大造じいさんとがん」という物語教材があります。物語のクライマックスで、大造じいさんはがんの頭領とうわさされている残雪を討ち取る千載一遇のチャンスを得ます。しかし、残雪を撃つことはしませんでした。中心人物の行動の変容をきっかけに、大造じいさんの心情の変化を読み取り、相手は誰であっても正々堂々と向き合うその人間性や性格に感動します。

ただ、国語の読解を離れ、実生活に思いをはせると考えてしまうことがあります。この行動は適切だったのでしょうか。大造じいさんは、なぜ残雪を撃たなかったのでしょうか。もし、大造じいさんに養うべき家族がいたとしたら、残雪を撃ち取ってもらわないと困るはずです。狩りで生計を立てている大造じいさん一家にとって、残雪を仕留めなかった経済的な損失は非常に大きいと思います。「大造じいさんは猟師としてのプライドを貫いたから」、「正々堂々としていて曲がったことが嫌いな人だから」と本人の性格に言及したところで、行動改善のヒントは何も出てきません。

行動分析学で使われる言葉に「個人攻撃の罨」というものがあります。片付ける行動が発現しない原因を「だらしがないから」と、他者を攻撃する言動が頻繁に発現する原因を「気分がむらがあるから」と、自分の物を持ち帰る行動が発現しない原因を「忘れっぽい人だから」などと、行動の原因をその人の性格や特性に求めすぎてしまうことだそうです。「個人攻撃の罨」にはまると行動改善の支援を見誤ります。時には、「気分のむらをなくす」などという、とんでもない支援策が出てきます。（人間であれば気分のむらはあって当然。それをなくすことは不可能。）

適切でない行動が発現しているところには、その行動を引き起こす環境の要因、その行動を発現した結果生じる本人にとってのメリットがあると思います。同時に適切な行動の発現を妨げる環境の要因、その行動を発現した結果生じる本人にとってのデメリットがあると思います。

行動観察を行う際には、性格のような主観にとらわれることなく、行動のきっかけや結果（メリット、デメリット）に注目し客観的に行動を捉えていこうと心がけています。

第2回コミュニティ・スクール研修会

文部科学省CSマイスターの大山賢一先生（上越市立春日新田小学校長）を講師にお迎えし、今年度2回目のコミュニティ・スクール研修会を開催しました。約80名の教職員、保護者、地域の皆様から御参加いただきました。大山先生の分かりやすく熱意あふれる御講話に、コミュニティ・スクールの魅力や可能性を多くの方々に感じていただくことができました。今後も研修を通してコミュニティ・スクールのよさや具体的な活動例を広げていきたいと思っております。

Q1. コミュニティ・スクールの仕組みや意義、メリットについてどの程度理解していましたか。

回答	割合
大いに理解していた	16%
おおむね理解していた	57%
あまり理解していなかった	19%
理解していなかった	7%

Q2. コミュニティ・スクールの「必要性」について理解が深まりましたか。

回答	割合
大いに理解できた	31%
おおむね理解できた	60%
あまり理解できない	9%
理解できない	0%

Q3. 今後、コミュニティ・スクールの機能を生かした取組をさらに推進していこうと思いませんか。

回答	割合
大いにそう思う	34%
おおむねそう思う	57%
あまり思わない	9%
思わない	0%

＜参加者の主な声＞

◆大いに参考になった。今後一生懸命取り組む意欲が出ました。

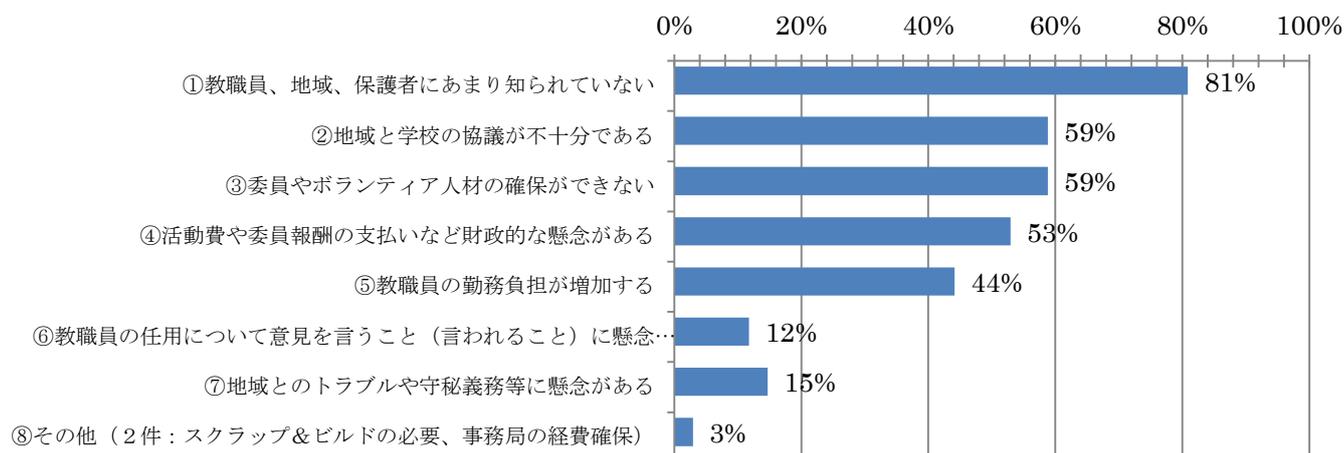
◆CSについて少しずつ理解できているが、まだまだ地域の人たちへの浸透は行き届いていないと思う。これからが大事だと思う。

◆子どもが学校を卒業してしまうと学校に関心が向かなくなると思うが、学校や子どもたちと一緒に何かをすることで、目が向いていくのかなと思う。地域の人々が学校に行く必要性、意味や意義を感じられる何かが必要だと思う。むずかしいことだなと思っていましたが、お話を伺って前向きな気持ちになれました。

◆三条市の小中一貫教育にはなじむように思います。地域の方の協力が得られるのかが不安があります。地域への理解を深めていく雰囲気、気運を高めていくことが必要だと思います。

◆コミュニティ・スクールの意義と「学校が変わる、子どもが変わる、地域が変わる」力につながる可能性が見えてきた。とても価値あるお話をうかがうことができた。ぜひ当校の取組に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

Q4. コミュニティ・スクールを導入するにあたっての課題（複数回答）



科学教育推進事業の紹介

三条市の子どもたちの科学する心を育む事業として、毎年、科学教育推進事業を行っています。様々な事業がある中で、小学校5、6年生の希望者を対象とした「子どもの科学教室」「科学・模型工作教室」の様子について紹介します。

「子どもの科学教室」

物理・化学・生物・地学・(星空は中止)の教室を行いました。科学の魅力を分かりやすく専門的に学ぶ教室です。



物理教室



生物教室



地学教室



化学教室

「科学・模型工作教室」

全6回シリーズです。ものづくりの楽しさを学ぶ教室です。毎回、すてきな科学模型作品が出来上がりました。



3Dミラーボックス



錯覚のおもちゃ



レインボーミラー



太陽光発電のE V



みんなで作ろう
ピタゴラスイッチ



「三条学講座」受講、ありがとうございました (Part②)

第4回 ものづくりのまち三条のルーツを探る 8/24(水) 於：三条鍛冶道場

三条鍛冶のルーツと変遷、鋼付けの技術、技術継承と後継者育成等、三条鍛冶の歴史、三条のものづくりにかける意気込み、三条が世界に誇る技術の伝承等、三条鍛冶道場館長の長谷川晴生さんの熱い話に引き込まれていきました。

◆具体物を見せていただいたり、身近な地名を用いてお話をいただいたりして、歴史を分かりやすく知ることができました。ものづくりのまち三条の歴史の深さ、技術の素晴らしさを改めて感じることができました。三条で生まれ育った自分に誇りをもつとともに、子どもたちによさを伝えていきたいと思えます...



◆技術の先生は必ずこの講座を聴くというふうにしてもよいかと思いました。技術教員は現在情報とコンピュータを主にした教育課程にしている学校が多いかと思えます。しかし、ここ三条市のような「ものづくりのまち」では、ものづくり分野に力を入れるというのもいいのではないかと感じました。大変深い学びとなりました...

第5回 金物の話講座「三条刃物について」(講義と実演) 9/16(金) 於：三条鍛冶道場

前半は鉄と鋼の違いや刃物づくりの工程や温度管理、全国刃物産地の特徴の講話、後半は鍛接等の迫力ある名人技の披露と受講者の体験。鑿鍛冶職人(伝統工芸士)の池田慶郎さんの卓越した技と情熱に圧倒されました。



◆講義を踏まえての実演だったので、非常に分かりやすく勉強になりました。また、池田様の「肩書きは重荷でしかない。」「刃物が怖いのではなくて扱い方を間違うから怖いだけ。正しく使えば便利。刃物のよさを...」という言葉にプロとしての信条を感じました。三条の子どもたちは、身近にこうしたすばらしい職人がいて体験ができ、恵まれた環境に育まれていることがよく分かりました...

◆実際に叩かせていただき、力の要る大変な作業だということが初めて分かりました。炉に入れて赤く色が変わる様子、叩いて形が変わっていく様子を実際に見たり体験したりすることができて、大変よかったです。

第6回 自然講座「秋の大崎山をたずねて」 10/13(木) 於：大崎山

秋の大崎山を散策しながら木の実や種、草花を見付けたり、それらを使った遊びを教わったりしながら、秋の大崎山を満喫しました。自然観察指導員の岩崎武さんの豊富な知識・経験に裏付けられた説明にあつという間に時間が過ぎました。

◆「アメリカセンダングサと習字の下敷きでゲーム」というアイデアが、翌日の「3年生大崎山探検活動」に役立ちました。子どもたちも大喜びで楽しみました。今後は、「シロツメクサの葉ですもう」「ドングリで銀行」「チドメクサを顔に貼って変装」などを児童に教えて楽しませてやりたいと思います。ありがとうございました。



◆大崎山についての知識を深めることができる貴重な講座だと思えます。できれば、今後も継続していただけると三条市に勤める先生方にとってよいのではないかと思います。

第7回 庖丁づくり講座(いか裂き庖丁・ペーパーナイフ・切り出し小刀) 11/5(土) 於：三条鍛冶道場

三条の名工4人(伝統工芸士)のみなさんの手ほどきで、普段見慣れている鉄が道具へと変わっていく一端を体感しました。「世界で一つの・自分だけの・実用的なもの」が完成し大満足でした。

◆研ぎはなかなか苦戦しました。でも、それがまた楽しくもありました。大事に使わせていただきます...
◆三条市で伝統のある包丁をつくらせていただき、その過程を体験して理解するとともに、何よりも職人さんたちの身に付けた技術に感動しました...
◆今日は飛び入り参加をさせていただき、誠にありがとうございました。先生方が講座で体験されたことを子どもたちにフィードバックしていらっしやるか知りたいなと思いました。(文部科学省生涯学習政策局研修生)
◆「三条学」ようやくフルコースで体験しました。ありがとうございました...(体験満了「切り出し小刀」製作中第四中・戸田校長先生→)

